

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（編入学試験） 経済学部 経済学科（科目名：専門試験）
------	--------------------------------------

経済学科の編入学試験の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学に関して、基本的な専門用語や基本的な理論モデルを正しく理解できているかを確認することにある。以下、各問題に対する解答例である。

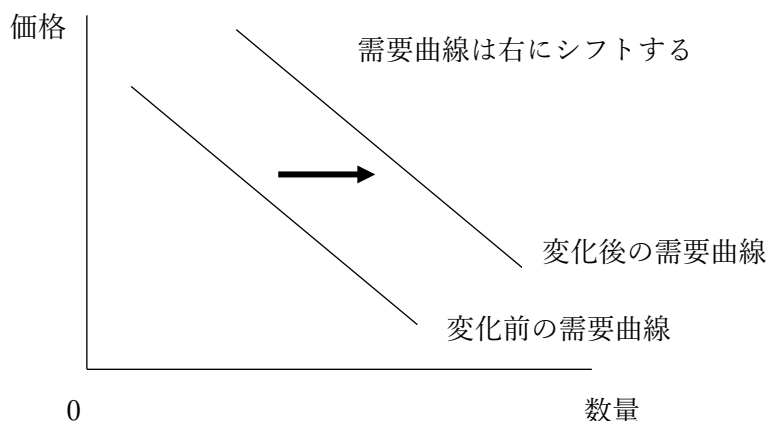
問1

1

(1) 代替財とは他の財の代わりに消費される財である。また、代替財はある財の価格の上昇が他方の財の需要量を増大させる財のことから、交差価格弾力性は正になる。

補完財とは他の財と併せて購入され、利用される財である。また、補完財は、どちらかの財（第1財）の価格が上昇すると、もう一方の財（第2財）の需要は一緒に減ってしまうことから、交差価格弾力性は負になる。

(2)



2

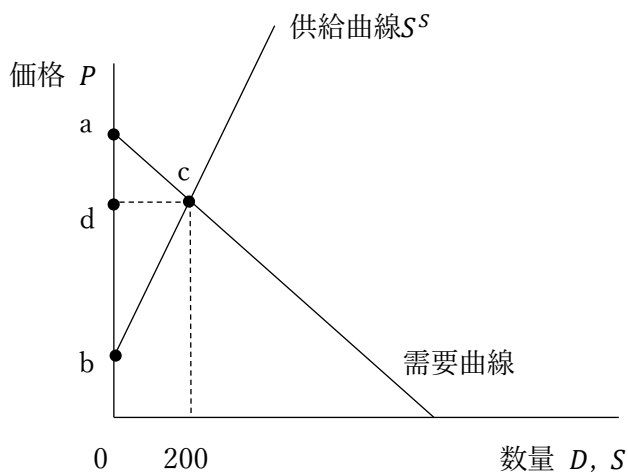
(1) この場合、供給曲線 S^s と需要曲線の交点の座標が、均衡価格と均衡取引量になる。したがって、均衡価格は以下を満たす P として求められる。

$$-200P + 1000 = \frac{200}{3}P - \frac{200}{3}$$

ゆえに、均衡価格は4、均衡取引量は200となる。

(2) 下図より、この場合の社会的余剰は、消費者余剰（ $\triangle adc$ ）と生産者余剰（ $\triangle dbc$ ）を

合計した△abcの面積になる。点aにおける縦軸の値は5、点bにおける縦軸の値は1になるので、辺abの長さは4である。したがって、△abcの面積は、 $4 \times 200 \times 1/2 = 400$ となる。

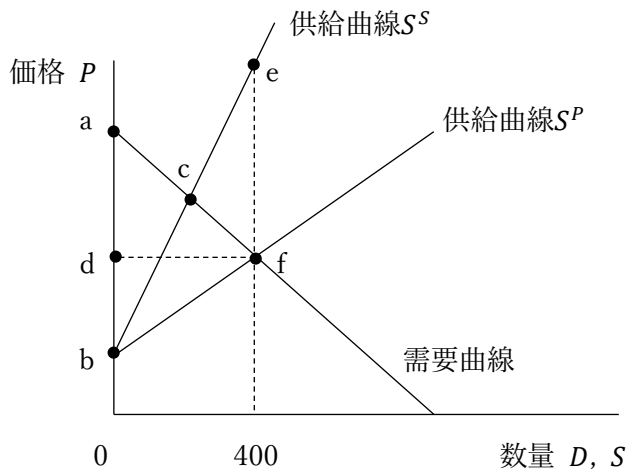


(3) この場合、供給曲線 S^P と需要曲線の交点の座標が、均衡価格と均衡取引量均衡になる。したがって、均衡価格は以下を満たす P として求められる。

$$-200P + 1000 = 200P - 200$$

ゆえに、均衡価格は3、均衡取引量は400となる。

(4) 下図より、この場合の社会的余剰は、消費者余剰 ($\triangle adf$) と生産者余剰 ($\triangle dbf$) を合計した $\triangle abf$ から、生産によって生じた社会的費用と私的費用の乖離分を意味する $\triangle bfe$ を差し引いた面積となる。 $\triangle abf$ の面積は、 $4 \times 400 \times 1/2 = 800$ となる。一方、点 e における縦軸の値は 7、点 f における縦軸の値は 3 になるので、 $\triangle bfe$ の面積は、 $4 \times 400 \times 1/2 = 800$ になる。したがって、社会的余剰はゼロになる。



問 2

1.

(1) 総需要は以下ようになる。

$$Y^d = C + I + G = 40 + 0.5 \times (Y - 0.2 \times Y) + 100 + 100 = 240 + 0.4 \times Y$$

均衡 GDP (均衡総所得は)

$$Y = Y^d$$

を満たすような Y^* なので、それを計算すると、答えは以下ようになる。

$$Y^* = \frac{240}{0.6} = 400$$

(2) 均衡における財政収支 ($= T - G$) は以下ようになる。

$$T - G = 0.2 \times Y^* - 100 = 0.2 \times 400 - 100 = -20$$

したがって、20 の財政赤字になる。

(3) 政府支出乗数は、他の条件を一定として政府支出を 100 から 101 に 1 増やしたときの均衡 GDP の変化量のことである。 $G = 101$ の場合の総需要 Y^d は以下ようになる。

$$Y^d = 241 + 0.4 \times Y$$

したがって、新しい均衡 GDP は以下ようになる。

$$Y^{**} = \frac{241}{0.6}$$

したがって、政府支出乗数は、 $Y^{**} - Y^* = \frac{1}{0.6} = \frac{5}{3} (\approx 1.67)$

(4) 政府支出を x だけ増やす場合を考える。この場合の総需要 Y^d は以下ようになる。

$$Y^d = 240 + x + 0.4 \times Y$$

したがって、この場合の均衡 GDP は以下ようになる。

$$Y^{\#} = \frac{240 + x}{0.6}$$

この $Y^{\#}$ が完全雇用 GDP (=500) に等しくなるような x が求めるべき値である。それを求めると以下ようになる。

$$\frac{240 + x}{0.6} = 500 \rightarrow x = 60$$

すなわち、政府支出を 60 増やせばよい。

(5) (4) より、政府支出を x だけ増やした場合の均衡 GDP は、 $Y^{\#} = \frac{240+x}{0.6}$ である。したがって、この均衡における財政収支は以下ようになる。

$$T - G = 0.2 \times \frac{240 + x}{0.6} - (100 + x)$$

この財政収支がゼロになるような x が求めるべき値なので、それを求めると以下ようになる。

$$0.2 \times \frac{240 + x}{0.6} - (100 + x) = 0 \rightarrow x = -30$$

すなわち、政府支出を 30 減らせばよい。

2.

(1) ある年の名目 GDP は、その年の最終財の生産数量にその年の最終財の価格を掛けて計算したものであるのに対し、ある年の実質 GDP は、その年の最終財の生産数量に基準年の最終財の価格を掛けて計算したものである。

(2) 貨幣に対する需要と供給を均衡させるような GDP と利率の関係を図示したもの。

(3) 利率が十分に低いとき、貨幣供給量（マネーストック）を増やしてもそれ以上利率が下がらなくなる状態のこと。すなわち、金融政策が無効になる状態のこと。

(4) 政府支出の増加などの拡張的な財政政策を行ったとき、利率が上昇して投資が減少することで、GDP を引き上げる効果が部分的に相殺される現象のこと。

(5) 現金通貨（現金）と預金通貨（普通預金や当座預金といった要求払預金）の残高のこと。

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（編入学試験） 経済学部 経済学科 （科目名：面接）
<p data-bbox="256 468 539 504">（面接の意図・ねらい）</p> <p data-bbox="240 562 1324 689">経済学科を志望する理由、入学後の学業・学生生活への意欲、卒業後の進路などについて、きちんと答えられるかを判断しています。</p> <p data-bbox="256 844 483 880">（評価のポイント）</p> <p data-bbox="240 938 1321 1066">面接者の質問に対して、的確に、具体的な内容で応答しているものを高く評価します。</p>	